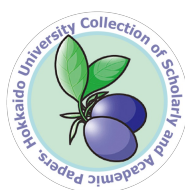




HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	学部一貫教育の深化を目指して：全学教育を中心に
Author(s)	阿部, 和厚
Citation	高等教育ジャーナル, 2, 3-8
Issue Date	1997
DOI	https://doi.org/10.14943/J.HighEdu.2.3
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/29838
Type	departmental bulletin paper
File Information	2_P3-8.pdf



学部一貫教育の深化を目指して —全学教育を中心に—

高等教育開発研究部長 阿部 和厚

1. はじめに

平成7年度に北大の新しい全学教育体制がスタートし、同時に、新設された高等教育開発研究部に、丹保総長の肝入りで、学部一貫教育研究会が発足した。この研究会の目的は、学部一貫教育のなかで全学の協力による一般教育、基礎教育等の全学教育をさらに深化、完成させて行くことであった。

この研究会は、平成7年度には、丹保総長、吉田宏前研究部長、研究部専任教官を中心に、全学部からの研究員14人により、合計9回の研究会が行なわれた。ここには毎回丹保総長も出席し、研究員およびその他の教官から、全学教育をめぐる現状、課題、問題点について話題提供がなされ、活発な討論が行なわれた。この会は公開されていたため、私もこの研究部の課題別研究員のひとりとして当初から参加していた。

このような流れのなかで、平成8年4月から私が研究の統括を引き継ぐことになった。以下に平成8年度の学部一貫教育研究会の活動のまとめ、各部会の関連性、および関連の問題点をまとめた。また、最後に提案の実践にむけての課題を個人的見解として整理した。

2. 具体的提案に向けて

高等教育開発研究部は、全学教育を中心に全学に共通する教育（高等教育）の具体的課題すべてを研究対象とし、教育の改善と発展に結びつけることを使命としている。ここでは、①全学教育の実施に関する問題、②専門教育における複数学部

に関連する問題、③教育の一環である入学試験の在り方に関する問題等、を研究する。すなわち、入学試験から一般教育、専門教育、大学院教育まで



を扱うことになる。平成7年度には、これらに関連して広範な問題が討論され、全学教育で早急に解決策を必要とする課題を以下の5つの部会に分けて検討することになった。研究部の教官、研究員は各々1つないし2つの部会に加わって検討をはじめた。各部会はそれぞれ数回の研究会をもち、別に総長が参加する全体研究会も3回行なった。

研究部会の担当予定内容はつぎの通りであった。各部会の構成員および研究会の開催記録は表1と表2に示す。

研究課題：総合大学における学部一貫教育の在り方（総括：阿部和厚）

A部会：学部間協力科目、単位互換、転学部（世話人：吉野悦雄）

全学教育は、全学の協力のもとに行なわれるが、学部教育の一部でもあるので、学部教育の視点もいれて問題を検討する。この際、複数学部に共通する必修科目や選択科目、単位互換も検討する。また、教官の担当体制、学生の転学部も関連して検討する。

B部会：教養コース（世話人：長谷川 淳）

現行の全学教育科目の多くは互いに独立し、全体として幅広くても、教育の内容が浅いという問題が指摘された。ここでは、学生がより深い教養を獲得するためのカリキュラムを検討する。テー

マにより統合する科目群を構想する。教養シリーズとしての出版物も計画する。

C部会：自然科学基礎実験（世話人：渡邊暉夫，徳永正晴）

新しい体制での理科実験は，それぞれの科目と関連して7回（1単位）となり，以前の半分の内容となった。学部目標からみて不足であるという声もある。意義，内容，教育の場所としての建物等を検討する。

D部会：外国語教育と情報教育（世話人：大平具彦）

言語教育と情報教育はコミュニケーション教育としてまとめられる。電子情報メディアの利用もいれて，これからの在り方と具体案を検討する。

E部会：レベル別教育，リメディアル教育，入学試験，完全単位制，4学期制（世話人：徳永正晴）

大学受験制度，入学学生の多様化と関連して，大学の教育体制，カリキュラムも変化しなければならない。ここでは，大学の今日性に適したカリキュラムを検討する。

以上の検討課題と関連して，各部会は多くの研究会を行い，また，全体会議で全体との整合性をみながら検討を進めた。以下に続く5編の論文は，これらの検討の成果と具体的な提案である。

3. 研究部会の成果の概略

A部会とB部会では，総合大学として学部間の枠を越える教育体制，すなわち，複数学部連携による科目履修の多様化，教官の連携による深い教養の提供を扱った。A部会では，とくに学部で行なっている専門科目を他学部の必修科目，選択科目履修に解放すること，あるいは，理系と文系との連携による統合科目の創設，専門基礎科目の他学部への解放などが検討された。また，B部会では，深い教養を学習目標に，テーマが関連する科目群をまとめて履修できるカリキュラム作成を検討した。

ここで，現行カリキュラムと提案カリキュラム

における用語に関して読み手に混乱を与えないよう，若干の説明を付け加えたい。A部会では，現行カリキュラムでの定義で「教養科目」を述べている。これらは，現在の「主題別講義」を含むリベラル・アーツ科目を中心とするカリキュラムである。一方，B部会で使われている「教養科目」という言葉は，この部会の新しい提案にもとづくもので，現在の「教養科目」「体育科目の健康分野」「総合講義」「全学へ向けての専門教育科目」等を総合して構成する一般教育科目のことを指す。

また，A・B部会では現在の総合講義を廃止し，これらの科目内容を整理して教養科目として展開することを提唱しているが，C部会では総合講義枠を利用する実験教育の拡充，深化も論じている。しかし，C部会で述べている形は，授業方法を実験，実習形式とすることの提案であり，この授業は総合講義を別の形にしようとするA・B部会提案でも実施可能である。

いずれにせよ，A・B部会の提案，およびC部会の実験教育を総合講義や一般教育演習で展開する案は，いずれも深い教養を目指している。ここでは，総合大学の特質を生かして専門分野以外の専門性（専門の基礎程度）も身につけ，幅広い可能性をもち，発展性を期待できる人物が育成されることを目標としている。

一方E部会は，入学試験制度と関連する現在の学生の学力と，カリキュラムでの学年歴を検討した。学部必修科目と関連する科目の学力が低い学生には，学力向上をはかる教育（レベル別教育），受験科目としなかった科目に対しては入門からの学力をつける教育（リメディアル教育）を検討した。レベル別教育は，D部会の外国語教育でも検討された。学年歴については，4学期制が検討された。4学期制では，1週に2回，8週の履修となる。ここでは，履修の密度をあげて教育効果，教育効率をあげ，また短い年数で多様な科目の履修を可能とすることを目指した。

C部会の自然科学基礎実験，D部会の外国語教

育と情報教育では、提案内容には教育の場所としての建物構想も検討された。

また、提案された内容が具体化されるために必要な教官の授業負担も論じられた（A・B部会）。教官の授業負担には、旧教養教育担当教官の配属に基づく責任部局、流用教官、非常勤講師、ティーチングアシスタント（TA）、授業内容、部局による公的作業量など複雑な問題が関連している。合意の得られる新しいカリキュラムの実践には、これらの問題も解決しなければならない。B部会の提案では、全学教育の負担方式を例示している。

4. 時間割り編成

学部間の枠をこえて科目履修をする方式を実施するためには、各学部の時間割りを全学レベルで合わせることが必要である。つぎにA～E部会の提案を実行するための時間割り調整について列挙する。

（1）必修専門科目の共通開講（A部会報告）

医学部、歯学部、獣医学部の生化学、細胞学、組織学、細胞生物学、生理学等の授業は、基本的にはほとんど同じでよい。薬学部でもかなりが共通の内容となろう。共通授業として複数学部が連携して担当することは、複数学部の学生の交流、教育の効率化、教官の授業負担減で望ましい。これを実行するためには、共同する複数学部がその講義を同じ時間帯に組み、合同授業を進める必要がある。時間割りは、共同する複数学部間で調整する。

一方、現在の教室は一般に学生定員の座席数で建築され、複数学部学生全員を収容する合同授業用には設計されていない。したがって、複数学部の必修科目合同授業には、建物設計、建築から考えなければならない。

（2）専門科目を他学部学生が選択として履修する案（A部会報告）

各学部の専門科目を他学部学生が選択科目とし

て履修することは、望ましい方向である。教室サイズから考慮して受け入れ可能な人数を履修させてよい。このために、選択をすすめる他学部科目が履修できるように、その学部の時間割りを開けておくことなど、関係する学部間で時間割りを調整する。

（3）専門教養分野の科目（A・B部会報告）

これらの科目は、全学教育の時間帯で専門基礎科目として展開されることが多い。教室サイズが適正であれば複数学部の時間割りを合わせることで履修可能となる。また、複数学部で共同で授業を設計し、授業展開することも考えられる。関係する学部間で調整する。

一方、はじめから全学教育科目として内容を設計し、解放するものも考えられる。

（4）統合科目（A・B部会報告）

2期あるいは3期にわたって、2～3科目をシリーズとするものでは、これらを連続受講できるような学年歴上の時間割りの調整が必要である。

（5）レベル別教育、リメディアル教育（D・E部会報告）

ひとつのクラスを2～3クラスに分けて授業を行なうことになる。そのため複数学部の学生で合同授業するものもでてくる。複数学部間での時間割りを一致させることが必要となる。

（6）4学期制（E部会報告）

4学期制では1週間に2回、8週の授業を計画している。週に2回の授業を入れることは、それ自体調整が困難であるとともに、他の科目との関連性で時間割り調整が複雑になる。実現のためには綿密な時間割り作成が必要となる。

（7）時間割りの共同設計

ある科目を複数学部で共同履修をする場合には、その関係学部が共同して必要科目の種類の把握、科目内容の設計、相互履修可能な時間割り設計、シラバスでの学生への履修の勧め等を実施する必要がある。たとえば、医学部、歯学部、獣医学部、薬学部などを同様の時間割りとすることも検討される。これにより、授業互換を可能にする。

(8) 履修受け付け

複数学部共通科目の履修受け付け数は、教室の規模により人数制限があることになる。そのためには、履修届けの際に人数制限をし、履修決定をする。これらのタイムスケジュールでの便宜を解決しておく必要がある。

5. 現代学生への対応

平成8年度の学部一貫教育研究会は、さらに深い教養を目標として、全学教育科目で履修できる新しい科目を提案した。提案の統合科目では2～3科目がシリーズで開講される。これらの全学教育科目は、主として入学後1年から1年半で履修される。入学したばかりの学生は、長い受験勉強から解放されたところであり、一方的知識伝授の授業を素直には受け入れがたい心理状況にある。とくに、提案の統合科目は量が多く、単なる提示のみでは敬遠されることが予想される。教師からみていくらよいカリキュラムを用意しても、学生に意欲がなく、履修されないことには役にたたない。これを防ぐためには、まず、入学したばかりの学生に対して適切なオリエンテーションを行うことが必要である。学ぶモチベーションの確認と強化も重要である。また展開される授業は、様々な教育メディア、様々な教授法の利用によって、学生を中心とする今日的なものとなることが期待される。こうして教育の効果、深化を図らなければならない。

6. 実践へ向けての体制

学部一貫教育研究会では、より多様で深い教養科目、全学教育科目の履修を可能にする提案を行った。しかし、この実行には、当代学生気質を的確に把握し、これに適応した形で教育が可能な綿密な時間割り設計が必要である。このためには、強力、かつ効果的、実質的な実施組織（委員会等）を早急に確立し、以下の課題を解決する必

要がある。

- ①教官の授業負担
- ②時間割り
- ③学生の気質に適応したカリキュラム設計
- ④カリキュラム改善組織

さらに、全学教育体制には、カリキュラム改革にともなう様々な問題があり、また、新たな問題も生じるであろう。ここでは、全学教育を継続的に考え、改善を図っていく体制が必要である。

現在の体制では、全学教育のカリキュラム作成、授業担当者の企画、調整、全学教育の実施は「全学教育委員会」で行なわれる。一方、「高等教育開発研究部」は教授法、教育業績評価法、高等教育の在り方を具体的に研究する。こうしてみると、今後を見通しながら具体的問題を継続的に研究する機関である高等教育開発研究部とそれを実施していく全学教育委員会とは連結しているべきである。全学教育委員会には、研究部の教官、研究員、部長等を加え、実践的教育の専門家としての研究成果を反映できるようにする。こうして、問題点を常に把握し、研究していく体制が教育の改善には効果的、効率的である。専門教育を含む形で教育が検討される「教務委員会」にも同様のメンバーが関わる必要があろう。

7. 高等教育機能開発総合センター建設構想

この研究会の報告は、教育の場所として、自然科学基礎実験のための基礎実験センター構想、外国語教育と情報教育が一体となった教育棟の建築に言及している。

また、キャンパスマスタープランでは、全学教育が展開される建物群の位置は、これからのキャンパスの中央となる現在の高等教育機能開発総合センター付近に想定されている。

北大では、平成7年から新しい全学教育がスタートした。ここでは、多くの新しい教育が展開されている。とくに、一般教育演習のような小人

数教育が数多く実践されている。さらに様々な形態の小グループ学習が始まっている。また、学生中心の発表、討論を行なう授業もある。ビデオや様々な映像を使用する学習もある。北大が新しい教育を展開し、大きく発展しようというこの時期に、新しい高等教育機能開発総合センターの建築構想を早急に進める必要がある。ここでは、新しい教育のイメージを、様々な形の少人数教育のための教室、クラス単位の教室、中講堂、大講堂、最新の視聴覚設備、マルチメディア教育設備の設

置、基礎実験の場、外国語教育・情報教育の場などで具体化することになる。そして、入学したばかりの学生は、大学を実感し、感激し、より高い学習、豊かな人間形成へと進む。建物の建設は、教育の場としての単なる箱作りではなく、人間を高め、北大スピリッツを養うための精神の具体化でもある。したがって、今の狭隘化した旧教養部の建物を何よりも優先して立派なものに建てかえて、そこで学ぶことが誇りとなり得るような高等教育機能開発総合センターにすべきである。

表1 研究部会のメンバー

[部会]	[氏名]	[所属]	[部会]	[氏名]	[所属]
A 部会	吉野悦雄	経済学部	D 部会	長澤滋治	薬学部
	井上芳郎	医学部		山本興太郎	地環研究科
	寺澤 實	農学部		渡邊継男	歯学部
	長澤滋治	薬学部		大平具彦	言語文化部
	畠山武道	法学部		井上芳郎	医学部
	長谷川淳	工学部		絵面良男	水産学部
	藤田正一	獣医学研究科		佐藤義治	工学部
B 部会	長谷川淳	工学部	E 部会	須田勝彦	教育学部
	小笠原正明	高等センター		細川敏幸	高等センター
	坂井昭宏	文学部		徳永正晴	理学研究科
	藤田正一	獣医学研究科		大平具彦	言語文化部
	畠山武道	法学部		佐藤義治	工学部
	山本興太郎	地環研究科		須田 力	教育学部
	吉野悦雄	経済学部		西森敏之	高等センター
C 部会	渡邊暉夫	理学研究科	全体 総括	渡邊継男	歯学部
	徳永正晴	理学研究科		吉田 宏	工学部
	寺澤 實	農学部		阿部和厚	高等セ、医
	徳田昌生	工学部			

表 2 研究会，研究部会の開催記録

全体会議（総長参加）	1月24日（金）1:30pm
6月3日（月）3:30pm	
9月20日（金）3:00pm	C 部会（理科基礎実験）
12月16日（月）3:00pm	5月27日（月）1:30pm
	7月15日（月）4:30pm
A 部会（学部間協力科目、単位互換、転学部）	10月21日（月）4:00pm
5月27日（月）4:00pm	11月18日（月）4:30pm
8月21日（木）2:30pm	1月6日（月）3:00pm
11月19日（月）3:00pm	
1月16日（木）1:30pm	D 部会（情報・言語関係の教育内容と施設）
1月24日（金）1:30pm	5月27日（月）
	7月1日（月）1:00pm
B 部会（教養コース）	9月11日（水）1:00pm
5月27日（月）5:00pm	10月21日（月）1:00pm
6月18日（火）3:00pm	1月10日（金）2:00pm
7月9日（火）4:00pm	
7月24日（水）4:00pm	E 部会（レベル別教育について（入試、完全単位制、4学期制を含む））
8月21日（木）4:30pm	6月12日（水）4:30pm
9月6日（木）	7月24日（水）4:30pm
11月19日（月）3:00pm	10月28日（水）4:30pm
1月16日（木）1:30pm	